

学会参加奨励金報告書

学籍番号：R22-065

名前：中村藍

学会名：ソウル特別市放射線士会学術大会

開催場所：ソウル特別市江南区三成洞 159 貿易センターCOEX

開催期間：2025. 3. 20～3. 23

発表セッション名：発表はしていない

発表形態：発表はしていない

発表日時：発表はしていない

1. 発表の概要

本学会では、日本や台湾、韓国の方が放射線に関する発表を行っていました。私はその発表を実際に聞き、自身の学びにつなげるために本学会に参加しました。

2. 質疑応答内容 他

発表の一つに日本の医療におけるタスクシフトについての内容があり、放射線技師が静脈注射を行えることを話されていました。薬剤の血管外漏出があった場合の対処法について質問があり、それに対して、手技を実際に行う前に実技練習があることや、医師がすぐに駆け付けることのできる環境で行っていると返答されていました。

3. 関連発表の内容

学会での発表を聞いて、特に印象に残ったのは、日本の医療におけるタスクシフトについてです。日本は医者的人数が減少していることが原因となり、医者一人ひとりの負担が大きいことが問題点として挙げられています。この現状を改善するために、タスクシフトを行っているということを発表されていました。診療放射線技師は、静脈注射などの手技を行うことが許可され、業務の幅が以前よりも広がっていることについて学びました。

4. 学会参加の感想

海外での学会に参加することは初めての経験でした。学会を通じて、様々な国や地域の病院で働く診療放射線技師の方々の発表を聞くことができ、国が異なっても同じ方向性を向いて学びを深めている人がいるという事実を目の当たりにしました。この経験は私にとって大きな刺激となり、勉学に対するモチベーションを一層高めるきっかけとなりました。

また、発表者の中には日本人の方もおり、英語で発表している姿を目の当たりにしました。このことから、私も今後、関心のある分野について研究し、英語での発表を通じて海外の方と知識を共有したいと感じました。今回の学会参加は、私の学問的な視野を広げ、国際的な交流の重要性を学ぶことができ、非常に貴重な経験となりました。今後も、日本国内だけでなく、海外の学会にも参加したいと思いました。最後に、本学会に引率して下さった水田先生、松尾先生に心より感謝申し上げます。

6. 現地参加がわかる写真(4枚)

